

# 平成31年度 公益財団法人 和歌山県栽培漁業協会事業計画

## 1 基本方針

本県地先海域における水産資源の維持増大を図るため、有用魚介類の種苗生産等を行い、放流等により栽培漁業を推進し、もって沿岸漁業の生産の向上に努める。

## 2 事業計画

### (1) 種苗生産等事業

県の委託を受け放流等に供するため、次のとおり種苗生産等を行う。

種類	計画数量	技術開発計画
ヒラメ	420千尾(30mm) 8千尾(80mm)	(種苗生産) 無眼側体色異常の出現を軽減させるとともに、生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗をより安定的に生産する技術の確立を目指す。 (中間育成) より安定的に生産する技術の確立を目指す。
イサキ	190千尾(20mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、より一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。
クエ	37千尾(40mm) 14千尾(100mm)	(種苗生産) 形態異常魚の出現防止に努めるとともに、生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。 (中間育成) より安定的に生産する技術の確立を目指す。
カサゴ	65千尾(20mm) 10千尾(40mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質な仔魚を一度に確保する技術の開発を図るとともに、餌料系列、給餌方法を再検討し、生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。 (中間育成) 安定的に生産する技術の確立を目指す。
アワビ類	クロアワビ 101千個(36mm) メガアワビ 59千個(36mm) トコブシ 72千個(26mm)	(種苗生産・中間育成) ・クロアワビ、メガアワビ 天然貝から健全な親貝を養成し、良質卵を安定して確保する技術の確立を図るとともに、付着珪藻の維持管理方法を再検討し、活力のある種苗をより安定して生産する技術の確立を目指す。 また、取り上げ直後の斃死数量を削減するため、飼育方法、取り上げ方法を再検討する。 ・トコブシ 成長を促進させるため、早期採卵を行い、安定して生産する技術の確立を目指す。

※ センター別生産計画

単位：千尾・千個

	ヒラメ	イサキ	クエ	カサゴ	アワビ類
北部栽培漁業センター		190		75	160
南部栽培漁業センター	428		51		72
計	428	190	51	75	232

(2) 栽培漁業総合推進事業

広域種の効率的・効果的な栽培漁業を推進するため、広域種資源造成型栽培漁業推進検討会に出席する。また、瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会で実施する、サワラ共同種苗生産・中間育成・放流事業に提供するため、ヒラメ冷凍孵化仔魚1,000万尾を作製する。

(3) 放流効果調査事業

(クエ)

標識放流したクエ（平成23・24年度に腹びれ抜去、平成27年度にダートタグ装着）について放流効果を検証していく。

(カサゴ)

水産試験場と共同で放流効果を検証していく。

(4) 普及啓発事業

一般県民に栽培漁業への理解を深めてもらう一環として、小学生を対象に体験放流や中学生の職場体験学習等の受け入れを行う。また、ホームページの改良を行う。